

論文審査の結果要旨

論文題名：

看護職の性の健康支援態度尺度の開発

申請者氏名：服部 弓子

審査の所見

<論文課題概要>

本論文は、看護職の性の健康支援に対する態度を測定する尺度を開発することを目的としている。概念分析及び看護職を対象とした調査の実施により、「看護職の性の健康支援態度尺度」を作成した。

<研究内容>

研究Ⅰは、性の健康を守る看護職の支援の概念を明らかにするものである。33件の研究論文と補足的な11名の助産師へのインタビューの分析から、性の健康を守る看護職の支援の属性として、【性に関わる言動を表出することを支援する】【自分自身の性を肯定的に受け止めることを支援する】【性に関わる意思決定をすることを支援する】【性の健康問題をセルフケアすることを支援する】【性的プライバシーを守り傷つきの深まりを予防することを支援する】【性を楽しむことを支援する】の6つの構成概念を明らかにしている。

研究Ⅱでは、性の健康を守る看護職の支援の6つの属性を基に、65項目の質問項目から構成される尺度原案を試作した上で、専門家会議による検討とプレテストを行い53項目から構成される看護職の性の健康支援態度尺度案を作成している。同尺度案に基づくWeb調査を実施し481名の回答を得ている。項目分析を行ったのち、探索的因子分析により、4因子24項目で構成される「看護職の性の健康支援態度尺度」が作成されている。確認的因子分析の結果は、GFI=.865、AGFI=.836、CFI=.920、RMSEA=.075であり、許容範囲を示す適合度が確認された。「看護職の性の健康支援態度尺度」の4因子を、〔性に関わる意思決定のための支援〕〔性に関わる障害の受け入れのための支援〕〔性的な暴力の被害者を守るための支援〕〔性的プライバシーを守るための支援〕とそれぞれ命名することができた。

<科学的到達・新規性>

審査では、性の健康に関する先行研究、性の健康支援に対する態度を測定する用具の開発の必要性の客観的根拠、尺度開発の手順及び調査対象集団の特徴を踏まえた考察と課題について質疑がされ、根拠に基づき妥当な回答が得られた。

本論文は、看護職による性の健康支援に焦点を当てた新規性に富むものと考えられる。その上で、上記の研究Ⅰ・Ⅱを通じ、性の健康に関する先行研究、性の健康支援に対する態度を測定する用具の開発の必要性の客観的根拠、尺度開発の手順及び調査対象集団の

特徴を踏まえた考察と課題について提示することができていると判断する。開発された尺度の信頼性と妥当性の分析についても適切に実施されていると共に、再テスト法による信頼性の確認と対象集団の拡大の必要性等の課題についても明確に述べられており、科学的到達と新規性を担保する。

<発展>

我が国では、性の健康支援に対する看護職の態度を測定する用具が存在しておらず、性の健康支援を積極的に実践できる看護職の育成や性の健康支援が遅れている現状がある。本研究の結果である性の健康支援尺度は、看護職の性の健康支援の現状評価と性の健康支援の促進に寄与するものと考えられる。当初の問題意識にあった「対象が性の喜びや楽しみを得るための悩みへの支援」の要素についても包含されるような看護職の性の健康支援の拡充も展望して、性の健康支援尺度の活用と継続的な改良努力を期待したい。

以上のことから、本論文は博士（健康科学）の学位授与に値するものとして認める。

【審査員】

主査：埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 教授 関 美雪

副査：埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 教授 朝日 雅也

副査：関西国際大学保健医療学部看護学科 教授 齋藤 益子